第　５　回
市民まちづくり活動促進テーブル計画部会

会　　議　　録

平成２０年１１月１２日（水）
札幌市役所　１２階　２号会議室

１．開　　会

○河野部会長　おばんでございます。

きょうは、最後の計画部会ですので、しっかり議論していきたいと思います。

お忙しい中、夜間にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

とてもいいお話をいろいろ聞くことができまして、私自身がまちづくりをどういう視点で見ていけばいいのかという意味では、この計画部会でいろいろなご意見が出されたことも含めて勉強させていただいたと思っています。これは、自分だけの勉強だけではありませんで、大きな目的があってのことですので、これから限られた時間ですけれども、議論をしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

２．報　　告

○河野部会長　それでは、最初に事務局よりご報告をいただきまして、それから始めていきたいと思います。

○事務局（秋川課長）　おばんでございます。

市民活動促進担当課の秋川です。

この部会も、きょうが５回目ということで大詰めになってまいりましたけれども、ご議論をよろしくお願いいたします。

前回からの経過につきましてご報告させていただきたいと思います。

まず、この委員会の臨時委員として安田委員と岩尾委員に委嘱させていただきましたけれども、岩尾委員につきましては、エルプラザの館長ということでご活躍いただいている最中だったのですが、先日、ご逝去されました。５２歳という大変若い年齢でお亡くなりになったのですけれども、ここにご冥福をお祈り申し上げます。

後任の人事につきましては、今、人選中です。次回の本部委員会のときには新しい臨時委員に委員会に入っていただくことで人選を急いでいる最中ですので、ご了解いただきたいと思います。

それから、前回ご報告申し上げました１７８万円で分野別、テーマ別の助成をするという件についてですけれども、１０月２５日に公開プレゼンテーションをいたしました。１８団体が発表を行いまして、各団体５分間の持ち時間で各審査委員、傍聴人の前で事業企画について発表をいただいたわけですが、１２団体に助成することで決定しました。福祉分野について５団体、地域安全について４団体、地域のつながりをつくるテーマについて３団体に助成を行うことに決定しました。きょうの決裁で決まったところですので、各団体についてはきょう以降にご連絡申し上げたいと思っております。

それから、基金についてですけれども、私どもは年間３，０００万円の寄附を集めるということで事業展開しているわけですが、きのう、おとといの道新、読売にも報道されましたけれども、とうとうこの１１月で３，０００万円を突破いたしました。４月からの運用以来、７カ月かかっておりまして、順調と言えば順調なのですけれども、寄附文化の醸

成というのが私どものメーンテーマでありますので、一般市民の方にますます広く周知を徹底するということで、ＰＲ活動については引き続き力を入れていきたいと思っています。

そんなところが近況ですが、今後のスケジュールということでもう一度おさらいさせていただきますと、きょうの計画部会で答申素案についておおむねの形が見えれば、今月末、もしくは来月上旬に予定している本部委員会でご議論をいただいて、その意見をもとに答申をまとめまして、市長には１２月中にその答申を渡したいと考えているところです。

以上、報告にかえさせていただきます。

○河野部会長　ありがとうございます。

事務局に何かお聞きしたいことはございますか。

（「なし」と発言する者あり）

３．協　　議

○河野部会長　それでは、本日の議題に入っていきます。

基本計画のあり方についての答申骨子案が出ております。まず、これについて説明していただいて、それから一つ一つ議論していきたいと思っております。よろしくお願いします。

事務局からご説明をいただきたいと思います。

○事務局（大瀬係長）　それでは、私の方から、基本計画の答申素案についてご説明申し上げます。

お配りした資料でございますけれども、Ａ３判のカラー刷りのものと冊子がございます。カラー刷りの方をもとに説明したいと思います。答申素案は既にお読みいただいていると思いますので、細かい説明は省きまして、全体の主な内容につきまして説明したいと思います。

答申素案の概要でございますけれども、全体の構成としましては、まずは現状と課題ということで、まちづくり活動を取り巻く現状と課題をまとめた部分です。参加する市民の側から見た現状と課題、二つ目に活動団体側から見た現状と課題というふうにまとめております。これを解決するための基本施策ということで、二つ目でございますけれども、（１）から（１９）まで項目立てしております。三つ目には、計画書作成にあたってということで、計画書全体に共通する視点といいますか、重点的な部分をまとめたものが（１）から（４）まであります。最後の四つ目は重点事項ということで、大きく分けて二つの項目がのっているという全体像でございます。

まず現状と課題につきましては、各種アンケート調査から分析した内容ということで、これも既に何回か説明していますので省きますけれども、過半数の市民は参加経験がないということや、シニアにつきましては、参加する意欲はあるのだけれども、実際に参加していないということがあります。町内会活動につきましても、参加したいという人と参加したくないという人が半々であったりという全体的な状況があるということです。これに

基づきまして、計画部会でいろいろご意見をいただいた結果、市民の孤立化や、家族とか地域が弱体化しているということが上げられています。そういった市民同士のつながりが非常に希薄だということで、そのつながりをいかに再構築していくかということが大きな課題だというご指摘がございました。

また、お互いのつながりをつけるようなコーディネーターの必要性とか、市民がまちづくりに気軽に参加できるような機会をつくることが大事だというご指摘がありました。あるいは、その中でまちづくりセンターへの期待とか、新しい活動、特に団塊の世代が活動に入っていけるような新しい場づくりも必要だというご意見があったところでございます。

また、活動団体側から見た現状と課題ということで、これも各種アンケート調査をもとに分析した内容ですけれども、小規模団体とか活動年数の短い団体が実際には非常に多い状況があったり、そういう団体がみずからの活動内容を多くの市民にＰＲしたいというニーズがあったり、あるいは、町内会やＮＰＯ共通の課題でございますけれども、団体を担う担い手である、会員とかボランティアに対するニーズが非常に高いということです。あるいは、身近な打ち合わせスペースなどの場が非常に求められているという状況があります。また、資金的ニーズが非常に高いということで、基金の設置に関しては多くの団体が賛同している状況があるということです。また、団体間の連携につきましては、既に連携している団体が６割ある。あるいは、残りの２割が、実際に連携していないけれども、連携に向けて前向きな意向を持っているという状況があります。ですから、連携そのものに対するニーズは非常に高いということです。

一方、団体間をつなげるコーディネートの部分に関しては、コーディネーター役が非常に求められている状況があるということがわかっております。

また、町内会に関しましては、役員の高齢化が非常に進んでいる。あるいは、新たな担い手の確保が課題になっているということが浮き彫りにされております。

また、企業の社会貢献活動に関しましては、社会貢献活動をやっていない企業が過半数という状況です。

そういうことを踏まえましていろいろなご意見があったわけですけれども、人材の育成に関しましては、人材不足とか活動につなげるコーディネーターが必要というご意見がありました。

財政的支援では、小規模団体の運営の安定化に向けた支援が必要だということです。

情報の支援につきましては、まちづくりに関する情報が一覧できるような仕組みが大事であるということです。あるいは、団体がみずから広報できるように支援をする仕組みが非常に求められているというご意見がございました。

また、活動の場につきましても、それぞれいろいろな公共施設がある中で、それらをネットワーク化するとか、会場とか施設を探しやすい環境の整備、これはポータルサイトにかかわってきますけれども、そういった環境の整備が大事だというご意見がありました。

また、活動の連携という部分につきましては、段階を追って連携に至るのではないかと。

まずは知り合うところから始まって、交流、連携、そして協働というように段階を追って深まっていくような支援が必要だということでございます。また、企業と市民の接点とか、お互いのマッチングのようなものが必要だというご意見がありました。そういった現状と課題を踏まえまして、基本施策ということであります。これも数が多いので全部は説明できませんけれども、情報提供という部分では、テーマ別の活動に関する情報であったり、気軽に活動できるようなボランティアに関する情報であったり、活動段階に応じた場の提供が必要だといったご意見がありました。

また、（２）番目の活動の場づくりということでは、気軽に参加できる活動の場、あるいは、団塊の世代向けの新たな活動、みずからの高度な知識やキャリアを生かせるような場ということでございます。

（３）番目は、人材育成の部分にも絡んできますけれども、まちづくりへの参加者をふやすきっかけづくりとか、最初は楽しみながら参加できるような人材育成、それがだんだん時を追うに従って高度な学習機会になってくる。あるいは、子どもとか家族が参加できる体験型の学習事業が必要であるというご意見がございました。

（４）番目は、お互いに市民と市民、市民と団体が出会って交流できる取り組みが必要というご意見がございました。

また、それともかかわってきますけれども、地域の中に交流できるような場をつくり、いわゆる地域の茶の間のようなものを促進していくことが大事だというご意見がございました。

また、（６）番目以降は、主に活動団体側から見た現状と課題を踏まえた施策のあり方でございますけれども、総合的な情報の発信が必要だというご意見や、団体みずからが情報発信することを支援する取り組みが大事というご意見がございました。

また、公共施設と民間施設を含めて施設情報の一元的な提供とか、打ち合わせができる身近な場への支援というご意見がありました。

また、さぽーとほっと基金のメニューの多様化ということで、課題にもありましたように、小さな団体が安定的、継続的な活動ができるような支援ということで、そういう助成メニューがあった方がいいのではないかというご意見がありました。

（９）番目は、人材育成の部分でございます。いろいろな活動段階の方々がいる中で、その段階に応じた人材育成が大事だろうということです。既に、市内で、札幌市の各部局でいろいろな講座に取り組まれておりますけれども、これらの講座を体系化して、自分がどの段階に合っているのかということがわかるような仕組みづくりが大切ではないかというご意見でございます。また、主に団塊の世代の方が高度な知識などを生かせるような人材育成のプログラムの開発、それから、実際に講座を受けた後の実践の場ということで、地域の活動につながる仕組みづくりが大事だということでございます。また、議論がいろいろ集中しましたけれども、札幌発のコーディネーターの育成事業ということで、各種団体をつなげたり、市民のまちづくりを後押しするような役割を持つコーディネーターを育

成することが必要だというご意見でございます。

（１０）番目以降は企業の社会貢献活動ということですけれども、そもそも社会貢献活動をやっていない企業も多々ある中で、企業の参加促進をする必要があるだろうということです。あるいは、企業が無理なく取り組めるように、ふだんの活動の中で社会貢献活動ができるような提案も必要ではないかということでございます。また、各種団体とか企業も含めてですけれども、お互いに交流するような場づくり、あるいはイベントが大事だということでございます。

また、市民が、単に座学ではなく、体験的に学んでいく中で実践に移っていけるような工夫が大切だということでございます。

（１３）番目でございますけれども、協働関係の普及ということで、いろいろな協働の事例をまとめて普及するような取り組み、あるいは、ＮＰＯと行政の協働事業の実施ということです。また、市民がこういう事業を通じて、みずからが主体的に組織を立ち上げて運営していくことを後押しするということが大切ではないかというご意見でございます。

（１４）番目でございますけれども、企業と団体、ＮＰＯの交流連携の場づくり、あるいは、（１５）番目の地域におけるまちづくりコーディネート機能の拡充と。

（１６）番目は、協働推進のための窓口ということで、主にこの計画部会では行政における窓口というご意見でございましたけれども、そういう窓口があって、団体間のネットワークを支援するような取り組みが必要ではないかということでございます。

また、市役所の中の横型の推進体制ということで、特にその中でも市民と職員が一緒に学び合う場をつくりながら、職員が意識啓発をしていくといいますか、意識を変えていくことが必要だということでございます。

（１８）番目の計画の進行管理や検証ということでございますけれども、市民参加の導入、市民目線での検証ということが指摘されております。

最後の留意点でございますけれども、悪質な団体による詐欺的な動きへの注意ということで、まちづくりにかこつけて、悪質な団体が詐欺的な行為をすることに警戒する必要があるのではないかということでございます。

また、答申の３番目の項目ですけれども、計画書作成にあたってということでございます。

一つは、この計画自体は札幌市が作成する計画でございますけれども、札幌市だけがやることを取り決めするという趣旨のものではなくて、市民、団体、事業者がともにこの計画を共通認識を持って進めるようなものであるべきということでございます。

また、計画の策定に当たっては、実際に活動に参加していない市民の目線を大切にする必要があるのではないかということでございます。そういう意味では、市民向けにもわかりやすく解説するような工夫が必要だということと、計画書本書のほかにもダイジェスト版といったわかりやすいものをつくる必要があるだろうということです。

最後の重点事業でございますけれども、大きく分けて二つ上げられております。一つ目

は人づくり、二つ目はまちセン等を中心とした地域のまちづくり活動への支援ということでございます。

一つ目の人づくり、いわゆる人材育成の部分でございますけれども、議論の中で何回も出ておりますコーディネーターの育成ということでございます。ここでは、まちづくりへ、そっと背を押してくれるコーディネーターということでございましたけれども、先ほど基本施策についての中では、団体と団体をつなげるコーディネートとか、団体自体がみずからの活動を促進するに当たってのリーダー的な役割といいますか、そういう意味でのコーディネーターということで、コーディネーターもここでは多義的に用いられておりますので、果たしてすべてをひっくるめてコーディネーターということでいいのか、あるいは、別の名称を当てるべきかということも含めてご意見をちょうだいしたいと思います。

②番目は、高度な集中講座、体験型、実践型のまちづくりメニューということでございます。地域課題解決型事業ということで、企画、実践、助成を一体として実施すること、あるいは、まちづくりに関して体系的、専門的に学べるコーディネーターの養成講座ということです。これは札幌ならではの取り組みになると思いますけれども、そういうものが大事だということでございます。また、コーディネーターの講座終了後に、実際に活動、活躍できるような場も視野に置いた事業化が必要だということです。そこには、資格制度といいますか、ライセンスのようなものも検討することが大事だというご意見がございました。

最後になりますけれども、まちづくりセンターを拠点にしたという部分でございます。

まず、まちセンからの情報提供とかきっかけづくりが非常にかぎだということでございます。

また、まちセンを中心に地域を知るきっかけをつくるような取り組みや、親子、家族ぐるみで参加できるような場など、いろいろな方々が参加しやすいような多彩な参加の入り口づくりということでございます。また、実際に歩いて地域を知っていく中で、いろいろな方々と交流できたり、それが、今まであるようなボランティアとか町内会活動とか市民活動とは違ったような新たな活動ができ上がってくることが必要ということです。

さらに、まちセンで地域情報や地域とのかかわり方を知っていくことができるような、まちセンの中での仕組みづくりが大切だということです。あるいは、まちセンの所長とともに地域のコーディネーター役の方がともに地域を担っていくことが必要だということです。また、まちセン中心に地域のまちづくりを学ぶ場ということで、まちセンを中心にワークショップのようなものが行われて、住民とともに学んでいくという取り組みが大切だということでございます。

主な内容ということで説明申し上げましたけれども、答申の主なポイントはそういうところです。

冊子の方ですけれども、今と重複しない部分を追加で説明いたします。

まず、答申素案は、一番最初をめくっていただきますと、「はじめに」がございます。

ここでは、促進テーブル全委員の連名ということで上げさせていただいております。あとは、目次の後にそれぞれの本文がございます。

２１ページ目をめくっていただきたいと思います。

基本施策の一番最後の部分で、（１９）番目のその他の留意点というところでございます。この書き出しのところに「ＩＴやまちづくりにおいても」とあります。この部分は、ご意見があって、ここではそのまま書かせていただいたのですけれども、内部で検討した結果、ＩＴというのがちょっとわかりづらいのではないかという話があったものですから、「ＩＴや」を削らせていただいて、「まちづくりにおいても」から始めた方がいいかなと考えております。「ＩＴや」を削除していただければと思います。

答申素案自体は、皆様からの生の意見に近い形で掲載させていただいております。

巻末には、２６ページ以降でございますけれども、資料編ということで、アンケート調査の概要も含めて細かい資料を載せさせていただいております。

本日は、この全体的な内容も含めて、言葉遣い、表現も含めて最終的なご意見をちょうだいできればと考えております。

私からは以上です。

○河野部会長　ありがとうございます。

これまでの４回の部会の中で私たちが自由に発言させていただいた内容を、このような形でまとめていただきました。その報告が今の内容だと思います。事務局にうまくまとめていただいていますが、今説明があったことに関して、ご意見とか、ちょっと違うのではないかということがありましたら、まず先に出していただいてから詳細に入っていきたいと思います。

何かございませんか。

最後の２１ページも含めてです。

すごく高度なことからささいなことも同時に含まれているような気がしますが、どうでしょうか。

前に、コーディネーターとかコーディネートという言葉がいいのかどうかということが議論の中にあったと記憶しています。今は全体的にその言葉を使っていますが、これについて皆さんのご意見はどうでしょうか。このままでいくということでよろしいでしょうか。

臼井委員　幾つか、コーディネーターと使っている中で、役割がちょっとずれている部分がありますね。それをどうしようかというのが非常に悩ましいところです。ある面ではコンダクターのような、サポーターのような……。

要するに、団体と団体を結びつけるのと背中を押すというのはちょっと違うような感じがします。コーディネートするというと、結びつける、そして一緒に動いていく中での順序立てをしたり、アドバイスをしていくということだと思いますが、ここでは文学的にそっと背中を押してくれると書いてあるのですけれども、この辺がどうなのかなと。僕も名案がないのですけれども、そう思いました。プロデューサーではないのですね。プロデュ

ーサーだと、もっとがんがんリーダーシップをとるわけですが、もっと陰で支えていくということですね。
○河野部会長　どっちかというと、そういうイメージですね。
○臼井委員　黒子になりながらも、力づけていくということですね。
○横江委員　広く人材を取り込んでいくということで、（１７）番の庁内に横型の推進体制ということになりますと、一緒に学び合う場の設定ということで、そういう場であればいろいろ参加してみたいという区民や市民がいっぱいいるといいなと。それを称して、つなぐ、つなげる、つながるではないですけれども、僕がイメージするのは札幌市のパイロット計画です。先導役というか、そういった人材を行政と一緒になって多く輩出していきたい。それが札幌市のパイロット計画であって、その中で育成された人たちが、地域コーディネーターであったり、学校コーディネーターであったり、団体間のコーディネーターであったりする。それをすべての面でできる人がまちセンのコーディネーターになる。さらに、今出てきましたけれども、自分の力量を発揮して、さらなるプランニングができるプロデューサー的な者がいるという人材構成になれば、かなりの部分は配置できると思います。
　今回は、全部、コーディネーターなので、イメージとしてはそんな感じで考えているのです。ただ、これを見られた人がどういうイメージを持つかということがあるので、概要版とか、タイトルとして、コーディネーターと打ち出すのはちょっとつらいものがあるので、私としてはパイロット計画的なイメージがあるのです。
○岩見副部会長　違う視点ですが、よろしいですか。
　私は、今聞いていて二つ感じたのですが、一つは、まちづくり活動団体ですね。現状を見たら、うちもそういうところがあるのですけれども、意外と主体性がないとか自立していない依存型の団体は結構あるのです。昔のボランティア観で、おれたちはいいことをやっているのだから支援するのは当たり前だみたいなね。そこら辺のことをどこかでうたってほしいと思うのです。市民活動であればみんなオーケーではなくて、今は自立型というか主体的な活動団体が求められているというところが一つ欲しいなと思いました。
　もう一つは、まちセンが一つのキーワードになっているのですけれども、現状のまちセンを見ますと、所長の個性によって動いている感じがするのです。行政的ではないという感じがしまして、職務分掌がどうなっているのか全くわからないのですけれども、例えば、行政サイドでここら辺を統括して、いわゆる共通的な機能を持っているセンターとしての動きがあるのかどうか。そこら辺がわからないのですが、そうしないと、人によって動く組織というのはまずいのではないか、という感じがしました。
　もう一つは、今のコーディネーターの関係では、私はやはり言葉の整理をしてほしいと思うのです。今、国レベルで、認知症サポーター制度が動いています。実は、きょう生協さんが来たのですが、今年度、厚労省の事業で生活支援サポーターという新しいものをつくるらしいのです。その支援プログラムのモデル事業に札幌の生協が手を挙げまして、そ

の講師依頼が来たのです。まさに、これなのです。

今、国レベルでも、地域の中でこういう機能がないから、いろいろな形で来ているのですけれども、いわゆる札幌バージョンを、どんな言葉がいいのかわからないのですが、その辺を整理する必要があるのかなと感じました。

以上です。

○河野部会長　ありがとうございます。

今、市民活動がどんな形で求められているのかというイメージをもうちょっとはっきり出していいのではないかというご意見です。それは入れていけると思うのですが、この言葉をどういうふうに整理していくのかというのは、今、ここでどうこうというふうにならないかもしれませんが、どうしたらいいでしょうか。

○菅原委員　これは、かわる言葉があればいいけれども……。

○横江委員　単純に言うと、言葉をとってしまってもいいところがあるかもしれません。

例えば、現状の課題（１）（２）とありますけれども、（２）に①から③とありまして、①の人材の育成支援、町内会と入って、次に市民を活動につなげるコーディネートができる高度な人材が必要とありますが、これは市民を活動につなげることができる高度な人材が必要と。コーディネートというのを特に入れなくていいようなところは整理していいのかなと思います。ここがそうかどうかという問題がありますが、余りにもそういう言葉が配置されていると、混同します。サポーターということもありますし、前々からボランティアとかいろいろあったのでしょうけれども、これは集中的にコーディネート、コーディネーターということがありますけれども、そのほかにもプロデューサーとかいろいろなことを各省庁なり各市町村なりでやっているかもしれません。札幌スタイルがコーディネーターということでいくのであれば、文言があちこちに配置されていて、ちょっとあり過ぎたかなという気もするので、整理するのも一つの手かなと思います。

○河野部会長　要するに、ニュアンスの違ったところはコーディネーターを使わないで整理していく方法もあるのではないかということですね。

○横江委員　あえて落として整理してしまうとか。

○河野部会長　今、言葉が乱立しているところがあるので、そこは少し整理してもいいかなというご意見が出されました。

私たちの意見がとても反映されているように思います。

○菅原委員　かなり高度なまとめ方をしたなと思います。

コーディネーターはどうしても必要なわけです。どんなことがあっても必要ですから、それを育成するのと、その人たちから学んだことを私たちが受けるという部分で必要なものです。ですから、私は余りいじらなくてもいいのかなと思っていました。それはどうしても必要なのですよという意味をここでぶつけているということで、それもまた必要なのかなと思っているのです。

○河野部会長　それでは、もうちょっと吟味していただくということで、よろしくお願い

します。

それでは、これについてはよろしいですか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○河野部会長　それでは、１から４まで四つの項目に渡っていますので、それについて一つずつやっていきたいと思います。できれば、あり方についてという答申素案そのものも確認していかなければいけないので、表は表ですが、答申素案も含めて、一つ一つ項目別にご意見を伺っていきたいと思っております。

最初の現状と課題については、もう何度も話されてきたことでありますので、余り問題はないと思って見させていただきましたが、委員の皆さん方はどうでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○河野部会長　それでは、１番はこのままとさせていただきます。

２番の課題解決に向けた基本施策についてですが、最後の（１９）番、先ほど素案の２１ページの報告がありましたけれども、それも含めた形でまとめられております。

ここは、４番目の重点事業についてというところとかかわってくる施策の中身なのです。４番も含めながら見ていただくのも一つの方法かと思いますが、この中に二つの重点事業をまとめていただいております。

文章上の文言も含めて、お気づきの点がありましたらお出しください。

私の印象では、（５）の地域の多様な交流サロンというか、地域のお茶の間というか、地域ごとにそういうものがあるともっといいのではないかという話もいろいろなところで出てきたように思います。それが、先ほど岩見さんから言われましたけれども、まちづくりセンターがそういう機能を持っていけるかどうかというのは、今のところは所長さん次第ということもありまして、そこが見えてこないということで、それをどのように施策として持っていったらいいのかということです。

○横江委員　これは、まちづくりセンターの町連さんなり市民団体なりの今後の自主運営で十分にこの機能を発揮していってもらいたいということがあります。現状は、所長さんが一生懸命やってくださっているのですけれども、意識が変わらないと、なかなか自主運営にいってくれないのです。要するに、今まで、まちづくりセンターには所長さんと職員さんの大体３人体制で地域住民のもろもろのサービスをしていただいていました。地域のあり方とか、今後の方針とか、将来の見通しを含めてです。それを、今度は地域住民にやってくださいといったときに、それだけのスキルとか、それだけの発想とか、それだけの意識のある人たちをいかに育てて、集めて、町連と一緒になってやれるかというところがかぎで、それがうまくいくと、これがうまく回っていくのです。

菅原委員は、今、それをやっているところかと思います。

僕も、今、町連にかかわっていまして、きのうも役員会があったのですけれども、まだまだやっていただくという意識の方が強いのです。市から、区から、所長さんに住民サー

ビスをやっていただくということが多いので、それを自分たちがやるのだという意識に変えていかなければいけないと思います。その辺は、地域によって時間的な差があると思います。ただ、元町とか、菅原委員のところとか、いろいろな成功事例を見せていくことによって意識が変わっていくのではないかという気がしているのです。

○河野部会長　岩見副部会長のイメージとしてはどうでしょうか。

○岩見副部会長　今、連絡所時代のまちセンというのは、地域の連町とか老人クラブのお世話役とか、会計帳簿をつくったり……。

○菅原委員　そういうのは一切ないです。

○岩見副部会長　全部、なくなりましたか。

○菅原委員　全部ではないのですが、大分なくなってきています。今までは、通帳がかなりあったのです。それを、全部、連絡所でやっていたのです。うちのまちセンの中にも１８冊あったそうですが、それがだんだん自分たちで自主管理するようになったのです。やはり、そこから始まっていかないと、自分たちでやるという意識はできないのです。ひどいところは、連町の会計まで全部やらせていたと。そういうことを取り除いて初めて、自分たちの意識が成り立ってくるのです。そうしないと、まちづくりというのは所長頼みでやるわけですけれども、そういうものは大分緩和されてきたのだろうと思っています。それでも、横江委員が言うように、役所頼み、所長頼みのところがまだあるのです。

　それから、今、所長が大変だというのは、役所務めですから、住民からの要望がたくさんあるのです。ニーズが物すごく多いのです。そうすると、所長だけではパンク状態になるのではないかと思うのです。役所からはものを押しつけられるし、住民からは要望が多いということで、板挟みになっている所長のところは大変だと思うのです。これを取り除くためには、さっき言ったように、個々の住民が独立する、自立するということが一番大切で、そうすると、このようなものがすぐにできていくのだろうと思うのです。それには、コーディネーターも必要だし、人材ということになると、そういうものが必要で、時間的にはまだまだかかるだろうと思います。

○岩見副部会長　一時、全市的に、まちセンが主体となって地域のいろいろな団体を集めたネットワーク会議を推進しようという動きがありましたね。結構できたところもあったようです。ところが、つくって何をするのかという目的がなかったのです。つくること自体が目的化されてしまって、できたけれども、では、次にどうするのかといったら、そこでなくなってしまって、実際にはしょぼしょぼとなってしまって、今はほとんど生かされていないです。

　もう一つ、福祉的な面から言えば、私どもがやっている見守りとか安否確認というのは、まさにまちセンというか、狭い地域の中の活動です。それから、家の中に入って行う家事支援という形になると、むしろ、隣近所ではプライバシーの問題があるから、もうちょっと違う活動団体に入ってきてほしいということがあるのです。では、それをだれがコーディネートするのかというと、そこら辺でなかなか存在感がないのです。

今でも、いわゆる地域単位ではない市民活動団体がまちづくりセンターの中に入ってきている例は少ないのではないでしょうか。
○菅原委員　ほとんどないです。
○岩見副部会長　そこなのです。
ですから、まちセンというと、どうしても地区とか町内会とか老人クラブということになって、それ以外の活動団体は現状では入りにくいというか、それをエリアとした活動自体がないというのが現状なのです。
○河野部会長　先ほどおっしゃったネットワークをつくろうというのは、目的は一体何だったのですか。
○横江委員　それは、（１７）番にも関連するけれども、その地区の横のつながりですね。いわゆる情報の共有化と価値観の共有化を、そういうものを集めればできるだろうということで、８７のまちセンそれぞれで、何々まちづくり協議会とか、何々委員会とか、いろいろなプロジェクトが走っているのです。たくさんあるところは十幾つもあるけれども、ないところは二、三しかないのです。ただ、岩見副部会長が言われるように、それが本当に機能しているのかというと、問題は、パイロットとかプロデューサーとかコーディネートできる人がその中にいなくて、何をやればいいんだということになってしまう。ですから、こういう人材がそこに投下されていないと機能しないのです。
それはＮＰＯとか市民団体ができるだろうと思ったのですが、まちセンの自主運営については、大きく方向転換して、今は町連とか町内会主体に変わっています。そこで気がついたのは、町連の大きな器では、よほどの意識があるリーダーシップをとれる人がいないと動かないのです。一番早いなと思ったのは町内会なのです。町内会それぞれに小さな単位で意識のある人を何人か集めると、これが動き出すのです。ですから、今、突破口は、町内会の活性化を図ると町連が動き、町連が動くとまちセンが動く。それから、今までできている組織体の協議会があれば、それを使って、そこに新たな人材を投下したり、新たな提案をして動かすと、組織はあるので動くかなと思っているのです。
○河野部会長　ただ、まちづくりセンターのイメージというのは、町内会とか、連町とか、そういうつながりの中に存在しているということで、住民にとってはそこは強いイメージがあるということですね。
○菅原委員　１００％そうです。
○河野部会長　そうすると、そこに市民活動などが入っていくと、ある意味でのコーディネーター的な役割を持った人もそこに入ってくるとなると……。
○横江委員　これは、取り込んでいかないとできないでしょうね。
○河野部会長　そこでも何か起きるような感じがするのですけれども、それをどうやってやるのかというのは大きな問題かもしれません。
○横江委員　多分、それができる人材がいたところは、元町さんとか、石山とか、平岸とか、澄川とか、そういう意識があって、そういう人材がいるところは、提案すればこうい

うことができるだろうと思います。
○菅原委員　ただ、元町の場合も、それだけの知識を持って、それだけの意欲があってやっているわけではないです。現在の仕事的なものは、そのくらいだったらやれるだろうということで手を挙げた部分があるので、こういうものをやるために手を挙げてやったということではないようです。
○河野部会長　ちょっと懸念したのは、既成事実をとても強く意識されている部分があるとすれば、それをどういうふうに私たちが提案しようとしているまちづくり活動に移行していける要素があるのかどうかというところが、こういうふうにぱっと出して、重点事業として、あるいは、地域の多様な子育てサロンをつくっていきましょうということで出していくと、今までのイメージの中でしかそこがとらえられないとしたら、可能性が薄れてくるような感じがするのです。
○岩見副部会長　具体的に言うと、エルプラザの２階に市民活動団体のセンターがありますね。あれは、言ってみれば、全市的な拠点ですね。では、あそことまちセンがつながっているのかという問題ですよ。それをどうつなげるのかということをやらないと、多分、つながってこないです。
○菅原委員　そこのコーディネーターをやるものがないと、私どもはこのように勉強させていただいているからわかるけれども、そうでない地域の人たちはほとんどわからないわけですから、そういうものをぽんと出しても、とても頭の中で浮かんでこないのです。元町にしても、こういうものをぽん出してやれば、動きはもっとよくなっていくと思っているのです。
○横江委員　４の重点事業の(１)の区とか市の積極的な仕掛けというものがありますね。町内会活性化プロジェクトであれば、全市の町内会から企画を応募するとか。幾つかの町内会が出してくるでしょうから、そこで切磋琢磨するとかね。この間の促進テーブルの１８団体でやったようなものをもっと提供するとか、いろいろな仕掛けをしてあげると、それに反応してくるところが幾つかは出てくると思いますし、成功事例も出てくると思うのです。
○河野部会長　今、ある意味で熟している部分も地域の中にはいっぱいある、団体とか活動しているものはある意味ではあると。そこに依拠しながら、そこをつなげていくということになれば、それはそれで大きな力になっていくだろう、変わっていける要素になるだろうということですね。
　私は、４番まで入れながら議論させていただいたのですけれども、ほかにお気づきになった点はありませんでしょうか。
○安田委員　２番ですけれども、（１）から（１９）まで、こういう並び方でいいのかどうかということと、もう少し大くくりの見出しがあって、その中に１９の項目が振り分けられるというのはどうか。
○河野部会長　中に小見出しをつけてまとめていくということですね。

○安田委員　そうです。

そうすると、４番にも関係してくるのでしょうけれども、企業の社会貢献活動の（１０）番とか（１１）番とか（１４）番というのは企業がかかわってくる内容になっているのですが、飛んでいたりします。また、（１３）番と（１６）番はつながっていると思います。そういう意味で、順番を変えて、三つか四つくらいのくくりに分けられそうな気がしたのです。

あとは、今、町内会レベルとかいろいろあるというのは、八十何カ所もあるので、いろいろなレベルがあって当たり前だと思っているのです。市民活動の団体にしてもそうですが、先進事例も紹介しながら、わかりやすく、まだそこまで気づいていない団体とか町内会に少しずつ知ってもらうきっかけをつくっていくということでいいと思うのです。長い目で見ないと、余り急ぎ過ぎると、何とか協議会とか何とかネットワークと同じことを繰り返すと思います。今はとても大事な時期ではないかと思います。

○河野部会長　同じところをまとめて、わかりやすく組み変えていくというのは、ありかもしれませんね。

○安田委員　その方が見やすくなると思うのです。

○河野部会長　ほかにお気づきになったところはありませんか。

文言的にはどうでしょうか。

３番の計画書作成にあたってというのは、ずっと言われてきたところだと思います。

４番の重点事業についてというところはどうでしょうか。

○臼井委員　３番の計画書作成にあたってというところで、素案を読むとわかるのですけれども、例えば３の（２）は、「計画書作成にあたっては、活動に参加していない市民の目線を大切に」でいいのでしょうか。これは、「活動に参加していない市民の目線も」ではないでしょうか。「を」ではなくて、「も」でしょうね。

○河野部会長　「も大切に」ですね。

○臼井委員　活動に参加している市民の目線も必要ですからね。市民の目線というのは大事ですけれども、特に活動に参加している、していないというのは、どちらもあると思います。

細かいところで言うと、結構あるのです。例えば、１４ページで非常に気になるのは、１０行目くらいで「子どもから非常に人気者になったり、ノウハウが非常に生かされたりします」というのは、「非常に」が気になるのです。これは二つも要るのかなと思うのです。そういう言葉的な流れは幾つかあるのですが、それを言い出すと切りがないですね。

○河野部会長　でも、お気づきのことがあれば出していただきたいと思います。

臼井委員に言われて、私も気になり出しているのですが、活動に参加していない市民と。その目線は大事だというのはわかりますし、いかに活動に参加していただくかという目的もこのまちづくり計画の中には十分過ぎるくらい必要なのですけれども、そこを言ってしまっていいのかなと思うのです。

○安田委員　市民を活動している市民と活動していない市民に分けてしまうのがいいのかなというところですね。
○河野部会長　そうです。
　何かいい言葉はないでしょうか。
　わかりやすいと言えばわかりやすいのですけれどもね。
○安田委員　これは、すぱっと外したらどうですか。例えば、「一般の」と入れると、一般の市民はどういう市民かということになるので、すぱっと外して、「計画策定にあたっては、市民の目線も大切に」と。それだったら「市民の目線を」でもいいかもしれませんが、そういうシンプルな言葉にしたらいかがでしょうか。
○横江委員　目線というのは微妙なところですね。よくＰＴＡでも言うのだけれども、子どもの目線に立ってどうのこうのというのがいいのか悪いのかということがあります。やはり、大人の目線で見て指導しないとだめだろうと思うのです。これは表現が微妙なところですね。
○臼井委員　目線なのか、視点なのか。
○安田委員　この部会から答申するということを考えると、目線と言わないかもしれませんね。市民の視点をという形でしょうね。
○河野部会長　その方がいいのかもしれませんね。
　では、案としては、活動に参加していないというところはすぱっととってしまう。市民の目線というよりも、視点という言葉がいいのではないかという意見も出されましたので、検討していただくことにしたいと思います。
○横江委員　２２ページはちゃんとなっているのです。
○臼井委員　そうなのです。まとめてしまうと、ちょっと誤解されますね。
○横江委員　ここは、単に「市民の目線を大切に」だけですね。
○河野部会長　その方がすっきりしますね。
　目線という言葉と視点という言葉をどうやって整理したらよろしいでしょうか。
　この文章でいけば、この前のところでも目線という言葉を使っています。この部会の中でも目線という言葉が出てきています。
○事務局（長谷部室長）　事務局からよろしいですか。
　実際にご議論の中では目線という言葉が出てきたのです。参加しない人をいかに参加していただくか、それを重視すべきという言葉が出てきたので、概要には参加しないということが入っています。ただ、ここだけ読むと誤解されるというご指摘はごもっともですし、素案の文章には入っていないということもあるので、それは変えさせていただきます。
　私どもも、行政が市民の目線と言うのはどうかと思うのです。市民の皆さんが使うのはいのですけれども、我々としては使いたくない言葉です。ただ、これは委員の答申ですので、それは全然構わないと思います。
○安田委員　どっちでもいいです。

○河野部会長　それでは、２２ページの中身でまとめていきたいと思いますが、よろしいですか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○臼井委員　それから、重点事業の（２）の②に「気軽な参加を演出」とありますが、「演出」という言葉がややひっかかるのです。演出というと、何か作為的につくり出すみたいな感じを受けるのです。例えば、気軽に参加でき、地域を知ることからということでいいのかなと思います。演出は、悪い言葉で言えばやらせ的にとられないかなという感じがします。

○岩見副部会長　そうですね。

○安田委員　気軽に参加でき、まず、地域を知ることから始めることと、わかりやすく流れますね。

○河野部会長　それでは、「演出」という言葉とりまして、「気軽に参加が」でしょうか、「気軽に参加ができ、まず、地域を知ることから始めること」にします。

○岩見副部会長　重点事業で、一つはコーディネーターをキーワードにしたのはいいのですけれども、もう一つはまちセンがキーワードですね。これは、さっきも言ったように、非常に限定された形になるのが、どうしてもひっかかってしまうのです。例えば、市民側から見れば、まちづくり活動に参加するのは一体なぜかというと、やはり、自分自身の地域での居場所づくりなのです。ですから、市民の居場所づくりへの支援とか、そういう言葉の方が幅広くならないかなと思うのです。まちセンのところで出てしまうと、限定されてしまうと思うのです。

　これは、今まで議論していなかったですね。重点事業で議論していましたか。

○河野部会長　前回、若干議論したのです。居場所とかサロンが必要だというところは出てきました。それに、今、まちセン自体の新しい機能が出てきているので、そこが生かされていけば、従来型のまちセンではないイメージも持てるのではないかという話がありました。

　ただ、そのときに、先ほど話に出たように、まちセンに対して、今まで連絡所にお任せしていたイメージが地域にあるとしたら、それを変えていくことが本当に可能になっていくのかどうかというのはちょっと大変だと思います。先ほど、いろいろな可能性があるという話は出たわけですけれども……。

○菅原委員　まちセンという名前になってまだ新しいわけですから、イメージとしてはまだ連絡所なのですよ。ですから、早くまちセンになってもらうのが一番です。地域としては、まちセンが機能をなさないとまちづくりはできないわけですからね。

○河野部会長　こんなふうにぽんと出してしまうと、本当にそれを新しいイメージとして持っていってもらえるかなというところが気になるのです。だから、例えばまちセンがというふうに、その機能を発揮してもらえるような施策が必要だという提案であれば……。

○岩見副部会長　そうですね。やるとしたら、確かに、まちセンが札幌独特の非常にユニ

ークな場であることはわかるのです。ですから、この場の特徴を生かすのなら、そういう表現にする方がいいと思います。これなら、それを拠点にしたという形になってしまっています。

○河野部会長　ここで決められてしまっているので、ここに強い意思が……。

○岩見副部会長　まちセンの機能のようなものをちょっと細工するみたいな、そこら辺の一工夫ですね。それならわかります。

○横江委員　私も、かかわったから、札幌市がまちセンを中心に地域をつくり上げようということがわかったのですけれども、上田市長が、８７のまちセンを中心に、ＮＰＯや市民活動団体で自主運営、それから方向転換して町連や町内会となったけれども、僕らが市民団体で動いていたときには、まちセンからまちづくりをしようなんて全く考えなかったのです。自分たちは自分たちの活動で社会教育とかいろいろなものをやって、それが区と連携して、協働して、自分たちが果たせる役割で区とか地域をよくしていこうと考えていたのです。それが、札幌市がまちセン中心だということで、何かおかしいな、そっちにかかわらないとまちづくりはできないのかなと不思議に思ったことがあるのです。幸い、私はＰＴＡとか町内会にもかかわっていたので、ＮＰＯでありながら町連やまちセンにもかかわることができたというラッキーな面があったのですが、ほとんどのＮＰＯとか市民グループにはそういう感覚がないと思うのです。

○河野部会長　町内会というイメージが強いのです。

○横江委員　そこをどう突破するかというと、僕らはかかわったから、まちセンが主体で文章が来ても全く違和感がないのですけれども、先ほど岩見副部会長が言われたように、一歩下がって、まちセンなどとか、そんなニュアンスでいくのかどうかというのは、どうなのでしょうか。一歩下がってね。

○菅原委員　逆に住民側からいくと、ＮＰＯとは何なのかということになるわけです。そうすると、ＮＰＯそのものは個々だよという感じしか受けないわけです。そうすると、まちセンには何も関係ないだろうという発想になってくるのです。ＮＰＯも入り、全部入っていただいてまちづくりだから、まちセンの中に入ってもらうことによってそういうものが解消されるのだけれども、今のところは、そうはいかない部分がありますね。住民にとってはね。

○横江委員　僕がＮＰＯの立場で仕事をしてやっていたときに、まちづくりのある委員長さんから排他的に見られました。そもそもまちづくりにＮＰＯという金もうけの組織に入ってもらっては困るんだと。

○菅原委員　これはあります。

○横江委員　それでちょっとショックを受けたのですが、幸い、町連にもかかわっていたので、今、一緒に仕事をすることができています。

○河野部会長　そうすると、（２）のところは、下の丸のところで地域の人たちが求めるまちづくりのセンターとして、まちづくりセンターが生かされていくということが提案さ

れればいいのですが、２の大きなところでは、先ほどの交流サロンとかいろいろなものを具体的にする市民の居場所というか、そういうものを支援していくと。その中の一つとしてまちづくりセンターに重要な役割を果たしてもらう、そういう文言の中身になっていくのでしょうか。

○岩見副部会長　これだったら、まちづくりセンター自身がまちづくり活動を支援するというとらえ方になりますね。そういう視点ではなくて、むしろ、ほかからまちセンを見るという感じですね。そういう表現がないかなと思います。

○河野部会長　まちづくりセンターは、あくまでも建物としてイメージされて、中身は別の機能を、ちゃんとしたものをもって、町内会もＮＰＯもいろいろな人たちがそこにかかわっていけるような、そういうイメージをつくっていければいいわけですね。そうだとしたら、（２）のところは、市民にとって、まちづくりのためにどんな居場所が必要なのか、そこが言葉になっていけばいいと思うのです。その一つの具体的なものとしては、まちづくりセンターというものが、今後、とても重要な役割を果たしていただくような機会とか、人も含めて必要なのではないかと思うのです。

○安田委員　これは重点事業ということなので、割と具体的な言葉を入れなければならないと思います。

　あと、③番で、まちづくりセンターの活動の結節点で地域で盛り上げようという感じになっています。まちづくりセンターは大きな役割を果たしているから、それはわかるのですけれどもね。

○河野部会長　まちづくりセンターをそういうイメージで、市庁舎の中で、横の連携で、見えていないところとか、今、大変なところが調整されていけば、まちづくりセンターが名目上、地域の拠点になると。そういうことが見えてくれば、これは生かされていくということがあると思うのです。ただ、今、私たちが把握している情報の中では、どうも違うのではないか、機能として違うように動いているのではないかという認識です。ですから、それを重点事業としてぽんと上げていいのかどうかというふうに議論させていただくと、上げるのだったら、ぽんと上げて、そういうことが前提にあって調整されながらいくということしかないと思うのです。

　重点事業について、まちづくりセンターというのは、私たちの議論の中では、ぽんと上げていくにはまだまだ不安感があると。

○事務局（長谷部室長）　これは、前回の議論で出てきたものを整理しただけですので、我々としてこれを絶対に重点事業と考えているわけではございません。我々としては、七つくらいの重点事業が必要だということで、居場所づくりも我々の議論の中では出てきているのです。ただ、我々の議論を皆さんに押しつけるつもりはないです。今まで、役所はそういうやり方でやってきましたので、そういうことはしないと。あくまでも委員の皆さんの議論をまとめようというスタンスでやっています。

○菅原委員　ただ、まちづくりセンターのことになると、相当のウエートをそっちからも

らわなければならないです。こっちで重点的にこうしたいということで動いても、そちらのまちづくりセンターの関係する方々が、そこにそれだけのものをしてくるかということになると、どうなるのかなと思います。そうすると、私たちの重点的なところはしぼんでしまうのではないかということもあるのです。

○安田委員　答申なので、私たちのメッセージをどう入れるかということですね。人のことは本当に何回も出てきますね。まちづくりセンターも、もうちょっと何とかならないかなと思ったのですが、もうちょっと何とかなってほしいということで言葉を置いていくと。

　ただ、拠点と結節点と言葉が変わっていていいのかなと思ったのです。何か意味合いがあったのかなと思いながら見ていました。

○臼井委員　これは、２の（５）で言っている地域の多様な交流サロンづくりの促進をより進展させた形で重点事業にするという考え方に近いのでしょうか。ですから、そっちのニュアンスをやや強めた方がいいのでしょうか。交流サロンというのは、ちょっと趣味的なニュアンスがあるので、それがもっとまちづくりの方に発展させたものという形でしょうか。

○岩見副部会長　例えば、キーワードで言いますと、まちづくり活動の創造とか、協働とか、出てくるじゃないですか。例えば、そういうものをトータルして考えると、居場所づくりへの支援ということをかなり網羅してしまっているのかなという感じがします。それから、さっきのキーワードで重点項目を入れるとしたら、もっとふえてきますね。そうしたら、重点事業になってこないからね。

○安田委員　先ほど岩見委員がおっしゃっていたように、まちづくりセンターなどというふうに「など」をくっつけてもいいかなという気がします。あいまいになるかもしれないけれども、それもいいのかなと思います。

○菅原委員　そうすると、そのほかのものは何があるのかということになると思います。そうなると、何か別なものがあるのだなというイメージもあると思います。これは難しいですね。

○河野部会長　例えば、町内会の会館などを利用した交流サロンというのは、子育て支援も含めて、高齢者の人たちのいろいろな集まりとして使われたりしていますね。そういうものも地域の中で開催していくことを推進していくような事業も必要なわけですね。それを仕掛けていくような機能を持った、ある意味で、イメージ的にはまちづくりセンターなのですね。仕掛けていく機能を持った、いろいろな地域にある町内会館などをまとめていくような、そういう事業をまとめていくようなイメージとしては、まちづくりセンターが機能してくれれば一番いいなということは意見の中でたくさん出されました。

○岩見副部会長　地域というのは二つの視点から考えざるを得ないと思います。まちづくりセンターの場合、あくまでも地区とか連町という物理的エリアでの地域のとらえ方です。もう一つの地域は、アソシエーションという言葉を使いますけれども、言ってみれば、人間関係を中心とした地域というとらえ方ですね。ですから、サロンでも、本当に小地域を

対象としたサロンと、全市民を対象としたサロンと、２種類あるわけです。ところが、ここでまちづくりセンターを拠点ととらえてしまうと、物理的エリアだけの地域というとらえ方になってしまうものですから、特に市民活動の場合は、ほとんどがもう一つの視点ですね。そこが欲しいというのと、もしくは、まちづくりセンターの機能をもうちょっと拡大して考えてもらうというところの言葉が欲しいなという感じがしたのです。

○横江委員　８７のまちづくりセンターで帰結しないで、などと言うと、何でも入るので逆にいいのかなと思ったのです。中学校区を中心とした学校支援地域本部もそうですし、各区民センターとか地区センターとか、ちえりあもあればエルプラザもあるとか、いろいろなことが考えられます。そういう面で、柔軟にいろいろな施設なりいろいろな機能が使えると思ったのです。

○河野部会長　大きなくくりとして（１）と（２）と、（１）はコーディネーターということですが、（２）の札幌の財産、まちづくりセンターを拠点にしたまちづくり活動への支援という言葉でくくって重点事業として出していいのかどうかというところです。それをもうちょっと広めて、例えば市民の居場所づくりへの支援というくくりにすれば、地域限定というよりも､さまざまな居場所づくりに対する支援ということがこの中に含まれて、その中の一つがまちづくりセンターの活用、充実、そういうことの一つとしてあらわれてきます。その他、ＮＰＯとかさまざまな活動団体がつくろうとしているサロンへの支援もそこにもう一つつけ加えられていくような、そういう重点活動にした方がいいのではないかということです。「など」という意見も含めて考えると、そう思うのです。

○岩見副部会長　それでは、市民の居場所づくりへの支援という言葉だと、（２）番目の重点をそうしますね。ただ、これではすごく抽象的なので、①で、一つはまちづくりセンターの強化というものを入れて、もう一つは、エルプラザの２階になるのでしょうか、市民活動の相談機能の強化とか情報というところをうたうことで具体化するという形ではどうでしょうか。

○河野部会長　まちづくりセンターに限らず、その他のさまざまな活動に対する支援もそこで一緒にしていきましょうということですね。

○岩見副部会長　そうしたら、①、②、③がまとまりますね。

○河野部会長　そうなのです。

そんなイメージだと、柔軟ですし、もっと広げた活動をつくっていけるということになっていくかなという気がするのです。

今のところ、二つ上がりました。

よろしいですか。

基本的には、まちづくりセンターが中心になったとしても、ほかのさまざまな活動が生まれてきてもいい、そこでまちセンと連携をとられていくと、もっと充実した地域づくりとか、地域を見る目とか、そういう人たちも育っていくのではないかということですね。

とりあえず、そういうふうにまとめさせていただきたいと思います。

余りまちセンに特化してしまうと、今のようになりかねないという懸念があるのです。多様な活動がその地域の中にたくさんあらわれてくることがとても大事なような気がするのです。

○臼井委員　きっと、これからは、岩見副部会長がおっしゃる人間関係、あるいは、自分が志向するものを中心にした地域活動がもっと活発化するのでしょうね。物理的な地域というのは、ある面では必要条件なのだけれども、それプラス、それ以上というと上位概念ではないのですが、自分で志向したり、目指したり、趣味的なものも含めて、そういった活動が活発化する方向が望ましいのでしょうね。

○河野部会長　エリアだけでかたまっていくというよりも、そこを中心にしながらもいろいろな人たちを結びついていくような活動が、ある意味で広がってくる。

○安田委員　市民も、自分のまちづくりセンターエリアでやっていないものは、隣のまちセンでやっているものに参加したりしているのです。

○河野部会長　それは、自分の住んでいるところをどう考えるかということで、いいかどうかというのはいろいろな議論があると思いますが、いろいろな活動をしながら自分の地域とか自分が住んでいるところを見ていけるというのも私たちが持っている視点ですから、そう考えると余り矛盾しないだろうと思います。

そんな形でまとめさせていただいてよろしいですか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○河野部会長　気になったところから、いろいろ話が見えてきました。そういう意味では、いい議論になったように思います。ありがとうございます。

○安田委員　まとめるのが大変ですね。言う方は楽ですけれども……。

○河野部会長　本当にそうですね。

○岩見副部会長　事務局は大変です。

○菅原委員　これは、よくまとめたものだなと、いつも感心するのです。

○河野部会長　私たちはべらべらと話しているだけですから、本当に頭が下がります。

それでは、さまざまな意見が出ましたので、ここでとめさせていただいて、事務局にお返ししたいと思いますが、よろしいですか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○事務局（大瀬係長）　どうもありがとうございました。

今回が計画部会の最後ということですから、きょう出た意見をもとに、答申素案をさらにまとめさせていただきます。もう一度、まとめたものを見ていただいた方がいいと思いますので、皆様方に再度見ていただいた上で、文言や表現の仕方のチェックをいただきたいと思います。ただ、何分、時間がないということもありますので、1週間くらいで……。

○事務局（長谷部室長）　来週の頭くらいに、きょういただいた意見を踏まえた修正をして、皆さんにお送りして、個別にご意見をいただきたいと思います。それを部会長にお見せして、これでよろしいかどうかの確認をいただいた上で、もう一回、全体で議論してい

ただきます。その場で、ここは違うということを言っていただきたいと思っています。一たん、来週の初めに皆さんにお送りします。

きょういただいた部分については、重点事業のところは、最初は人、居場所、きっかけです。場所があってもだめですから、やはりきっかけづくりです。それは、岩見副部会長がおっしゃったように、地区ではなくて、全体というテーマもありますし、それは私どもも十分認識しています。その中で、まちセンの活用が一つ入る。また、まちセンも今の状態がいいと私どもも思っておりません。ただ、今、所長が１人で、所長もオールマイティーではないのです。私は福祉の分野をずっとやってきて得意ですけれども、都市計画なんて一切わかりません。やはり、得意、不得意があって、それがどんどんかわっていきます。所長というのは、地域にとってはパートタイムの住人なのです。ですから、ここでご議論いただいたように、所長だけではなくて、地域の方たちにも加わっていただいて、トータルでいろいろなことができるという方に持っていかなければいけないのです。まちづくり協議会も、いろいろな団体を役所が縦割りでつくってきてしまったというか、お願いしていろいろつくっていただいたという部分があるので、重複しているところがあったり、一緒にやればもっと大きな力になるのだけれども、そうしていないところが結構あるのです。それをネットワークしていこう、それぞれの団体の特徴は生かしながら、協力できることとか一緒にやって効果的なことは一緒にやっていきましょうという趣旨で、全部が全部、うまくいっているわけではないです。ただ会議しかしていないところとか、単一テーマでやっているところもあれば、いろいろな部会ができていろいろな活動をしているところもあります。まだまだ不十分だという認識がありますし、ＮＰＯについても、まちづくり協議会に入っているのは５団体くらいしかないのです。やはり、ＮＰＯに対する理解が十分ではないし、ＮＰＯ側も町内会とか地域の活動に無理解なところもあるのです。お互いに理解し合い、一緒にできることはやっていきましょうと。合わないところは合わないので無理に一緒にやる必要は全くないです。ただ、そういういろいろな選択肢がいろいろなところにあるということはつくっていきたいと思っています。

あとは、まちづくりセンターも、今は全く情報がないのです。情報交流と言いながら、私は市民活動をしたいと来られたときに、では、どうしたらいいのかという状況です。やはり、基本的なご相談には乗れる、しかし、専門的なところはエルプラザにつなぐとか、そういう役割分担をしながらやっていく必要があります。あとは、この地域にはないけれども、隣の地域でこんなことをやっています、隣が受け入れてくれるならそっちを紹介することもできますと。それが、今は所長の個人的な手腕に依存している状況ですから、それは情報を集約してやっていきたいと思っていますし、そういうものを目指しています。

ただ、私どものやり方として、従来だったら、この答申の中に我々の思いも全部入れて、計画書そのものという答申になってしまうのですけれども、それはちょっと違うのではないかということでやり方を変えています。思いはなるべく出さないようにしてやってきました。計画書自体は、皆さんのご意見と我々の思いも入れた計画という形になろうかと思

います。

来週くらいまでに整理をさせていただいて、見ていただいた上で全体の会議というふうに考えていますので、よろしくお願いします。

○河野部会長　ありがとうございます。

今のお話を聞きながら、本当に協働で物事が進んでいくということは一番すばらしいのではないかと思いました。

それでは、終わりということでよろしいですか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○河野部会長　事務局の方から連絡事項がございましたらお願いします。

○事務局（大瀬係長）　計画部会は今回で終わりですが、次回は本部委員会ということで、スケジュールがタイトなのですけれども、今のところ、１１月２５日から１２月５日までで調整させていただきたいと思っています。

この場で日程調整をさせていただきたいと思います。

〔　次回本部委員会の日程調整　〕

○河野部会長　それでは、１２月１日の午前中と、４日の午前中と夜、５日の午前中、この四つが丸ということになります。

○事務局（大瀬係長）　わかりました。

○岩見副部会長　日にちはいつぐらいに決めていただけるのですか。

○事務局（大瀬係長）　早目に決めさせていただきます。

４．閉　　会

○河野部会長　きょうは、長時間にわたってご議論いただきまして、ありがとうございました。

以　　上